

# 公民学連携による新たな価値創出へのチャレンジ

## —マチカネワニからノーベル賞まで多様なご縁を未来につなぐ—



地域交流

豊中市長 長内 繁樹\*

Creating New Value through Public-Private-Academic Partnerships  
- Connecting our City's Diverse Ties to the Future -

Key Words: Regional innovation, University startup support, Toyotamaphimeia machikanensis

### 1 アカデミアと資金を結び、阪大発ベンチャー創設支援をスタート

#### (1) りそな×阪大×豊中がタッグを組んだ

豊中市は2026年4月から、りそな銀行からの企業版ふるさと納税による寄附金を財源として、大阪大学が事業化をめざす研究開発プロジェクトに対する支援をスタートしました。1研究あたり1年度で最大1,000万円、最長3年間補助します。大阪大学が有する最新の知見や最先端の技術を世に送り出し、地域社会にイノベーションを創出することにより、地域の課題解決や新たな産業を生み出すことにつながようという、初めてのチャレンジです。

この取組みは、りそな銀行からの提案をきっかけとして検討が始まりました。自治体と大学、金融機関の連携の枠組みや支援の要件について三者で協議を進め、2026年1月、大阪大学の研究成果の社会実装支援に関する連携協定の締結に至りました(写真1)。

連携の仕組みを簡単にご説明すると、りそな銀行が企業版ふるさと納税制度により、本市の地方創生事業「活力ある快適なまちづくり推進事業」に対し寄附を行います。本市は、これを財源として当該事業の中で、大阪大学の研究成果の社会実装を支援する補助制度を創設。大阪大学は、研究シーズの事業化をめざす研究者を公募し、審査を経て採択した研究開発プロジェクトに対し、この補助制度を活用して支援します。りそな銀行は大阪大学の各研究室に対し、事業化への助言や社会実装に向けた伴走支援を行います。



写真1 連携協定締結式(左から、りそな銀行・南和利取締役副社長、大阪大学・藤尾慈副学長、豊中市長・長内繁樹)

#### (2) 地域のイノベーションを促進

本市のねらいは、大阪大学発ベンチャーの創設を後押しし、市内への立地や、市内事業者とのマッチングによる生産性・付加価値の向上を促進することで、新たな価値やサービスを創出することです。自治体の首長という立場から言えば、高齢化や人手不足など地域が直面している課題の解決につなげたいという思いがあります。しかし、だからといって支援対象を限定しては、社会にインパクトを与えるような尖った発想や成果は生まれません。支援にあたり本市が細かな条件を付すのではなく、広い視点を持って、豊中を起点に様々なベンチャービジネスが生まれるよう、三者でタッグを組んで進めていきます。

りそな銀行からは、7年間で最大10億円を本市に寄附することが表明されています。今回の補助制度をはじめ、本市の「活力ある快適なまちづくり推進事業」に基づく産業振興施策にも活用し、地域産業の活性化に取り組みます。

#### (3) 総合大学がある優位性を市政に活かす

改めて、本市と大阪大学の連携の歩みを振り返ると、審議会への参画や市史編纂にあたっての調査・執筆など、市政の各分野でご協力いただけてきまし

\* Shigeki OSANAI

1958年8月生まれ  
関西学院大学経済学部(1981年)  
現在、豊中市長(2018年5月～)



た。2007年2月には包括連携協定を締結し、地域社会の持続的な発展に資することを目的として、人的交流、知的・物的資源の相互活用、共同による調査研究・事業実施に連携して取り組むことを定めています。これまで、市民講座や哲学カフェ、子どもたちを対象とした科学実験教室、大阪大学総合学術博物館での企画展、本市所蔵絵画の調査研究など、研究者や学生の皆さんと一緒に取組みを進めてきました。

2025年に大阪大学免疫学フロンティア研究センター特任教授の坂口志文先生がノーベル生理学・医学賞を受賞されたことは、本市にとっても嬉しいニュースであり、大変誇らしく思っています。世界への扉が開かれた総合大学が地元にあることは、子どもたちが将来の夢を描き、学びを深めていく上での目標となり、励みにもなります。

## 2 ノーベル賞と豊中、知られざるエピソード

### (1) 利根川進博士「豊中は原体験の地」

実は、豊中は二人のノーベル賞受賞者との縁のあるまちであることをご存じでしょうか。

古くは、免疫の仕組みを解明した功績により1987年にノーベル生理学・医学賞を受賞された利根川進博士(1939-)に遡ります。幼少期に豊中の原田に移り住み、市立原田小学校に入学した終戦翌年にかけての4年間を過ごされています。後年、本市の広報誌に「原田の思い出」と題したエッセーをご寄稿いただきました(「広報とよなか」2000年1月号)。その中で、警戒警報のサイレンが鳴るたびに防空壕に身を潜めたことや、小川で釣りをして遊んだ思い出とともに、「原田での4年間は、子どもの頃の確かな記憶が遡れる限界にあたる。(中略)豊中は僕にとっては、まさに原体験の土地で、今は亡き母の面影とともに、これからも僕の記憶の中に生き続けるであろう」と語っておられます。

### (2) 南部陽一郎博士「豊中は第二のふるさと」

もう一人は、素粒子物理学の基礎となる「自発的対称性の破れ」の概念を確立した功績により2008年にノーベル物理学賞を受賞された物理学者で、大阪大学特別栄誉教授の南部陽一郎博士(1921-2015)です。ご結婚後、豊中の上野に住まいを置き、アメリカに研究拠点を移されてからも、帰国の際にはそのご自宅に滞在されていました。市立上野小学校の創

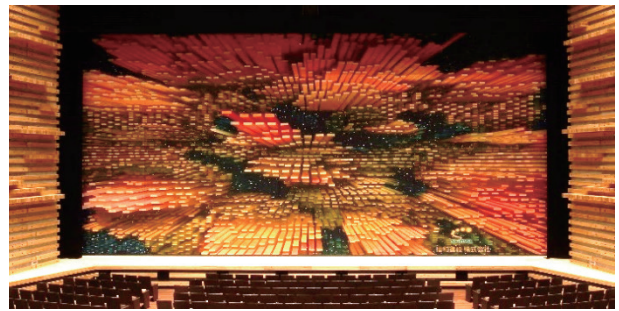


写真2 南部陽一郎博士のノーベル賞受賞の研究理論をデザイン化した緞帳(豊中市立文化芸術センター・大ホール)

立60周年記念として、2009年、ご自身の半生を写真で紹介したビデオメッセージにより、お祝いと子どもたちへの励ましの言葉が届けられました。2011年には、本市初の名誉市民に選ばれています。豊中を「第二のふるさと」と呼び、永く愛着を寄せてくださいました。

阪急曽根駅前にある市立文化芸術センターの大ホールには、「宇宙そして自発的対称性の破れ」と題してデザインされた緞帳があります(写真2)。これは、ノーベル賞受賞の功績を顕彰し、永く市民の皆さんにご覧いただけるよう制作したものです。南部先生の監修のもと、大阪大学のデザインプロジェクトチームにおいて図柄を作成いただきました。



写真3 マチカネくん(写真中央。左右はワニ博士)からのお祝いポスト(豊中市公式X、2025年10月9日)

### 3 豊中も阪大も、ワニが公式キャラクター

#### (1) ノーベル賞で大ブレイク

最後に、本市と大阪大学の関わりを語る上で、今や欠かせない存在となったマチカネワニについてご紹介します。豊中市公式キャラクター・マチカネくんと、大阪大学公式マスコットキャラクター・ワニ博士のモデルとなった古代ワニです。

2025年10月、坂口志文先生のノーベル賞受賞が発表された日の夜、記者会見のテレビ中継に映し出されたワニ博士。受賞の喜びを語る先生の傍らで誇らしげに顔をそろえる姿が瞬く間にSNSを駆け巡り、カワイイと評判になりました。マチカネくんが市公式Xにお祝いメッセージと写真を投稿したところ、こちらも広く拡散され、ワニ博士とマチカネくんのつながりを多くの方に知っていただくことができました(前頁、写真3)。

#### (2) 世界的にも価値の高いマチカネワニ化石

マチカネワニは、今から40～50万年前のある時期に日本列島に生息していた、全長約7～8メートルの大型のワニ類です。1964年に大阪大学豊中キャンパスの理学部周辺の工事現場で、化石採取に来ていた2人の青年が骨片の化石を見つけたことをきっかけに調査が行われ、約45万年前の地層から頭骨や牙、背骨など全身の化石が発掘されました。全骨格の約8割が見つかった貴重な化石で、ホロタイプ標本(正基準標本)に位置付けられています。近年、国内外で調査研究が進んだことにより、世界的に見ても重要な標本であることが明らかになり、2025

年に国の天然記念物として指定を受けました。

#### (3) マチカネくん誕生の裏には阪大の協力が

本市のマチカネくんは、市制施行50周年を迎えた1986年に、50周年をPRするためのシンボルキャラクターとして誕生しました(写真4)。当時の記録報告書によると、シンボルの決定にあたっては、市民が誇りうるもの、子どもを中心に広く知られているもの、キャラクターになりやすいものという観点から、マチカネワニを選定。化石の発掘調査を担当された大阪大学の中世古

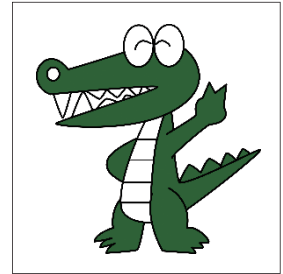


写真4 マチカネくん

幸次郎教授から助言を受け、スケッチを書き起こし、イラスト化したものです。記念事業として、中世古先生のご協力を得てマチカネワニ化石の特別展を開催したところ、一般公開されるのが初めてであったことから、テレビでも紹介され、8日間の展示期間に1万人近い来場者が訪れました。

マチカネワニ化石は大阪大学総合学術博物館に所蔵され、常設展示されています。全身骨格を復元したレプリカは、市立文化芸術センター(写真5)をはじめ、北海道大学総合博物館、東京大学総合研究博物館のインターメディアテクなど全国各地で見ることができます。間近でご覧いただくと、その大きさを実感いただけたと思います。ぜひ、足をお運びください。



写真5 マチカネワニの全身骨格の復元模型(豊中市立文化芸術センター)